
市川町景気動向調査

2020年7-9月期

市川町商工会

目 次

I. 調査要領.....	- 1 -
1. 調査目的.....	- 1 -
2. 全国および兵庫県の経済動向調査.....	- 1 -
3. 管内調査.....	- 1 -
II. 全国および兵庫県の経済動向.....	- 2 -
III. 管内調査結果.....	- 3 -
1. 売上高の状況.....	- 3 -
2. 採算（経常利益）の状況.....	- 5 -
3. 資金繰りの状況.....	- 7 -
4. 人材の状況.....	- 10 -
5. 業況の状況.....	- 14 -
6. 設備投資の実施状況.....	- 16 -
7. 最も優先すべき経営上の課題.....	- 18 -

1. 調査要領

1. 調査目的

管内の中小・小規模事業者の景気動向について、その実態を把握すると共に、全国及び兵庫県内の情勢との違いを把握する。

2. 全国および兵庫県の経済動向調査

全国及び兵庫県の景気動向指数、中小企業景況、住宅着工件数、有効求人倍率、倒産件数の動向について整理した。

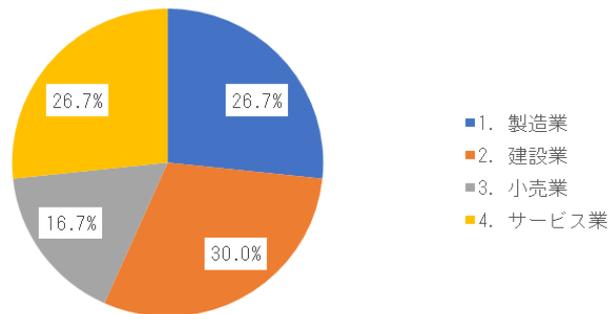
3. 管内調査

市川町商工会管轄内の企業を対象に、アンケート調査を実施した。

(1) 対象企業数…30企業

〈内訳〉

製造業	8社
建設業	9社
小売業	5社
サービス業	8社



(2) 調査方法…商工会の職員による訪問面接調査

(3) 調査対象期間…2020年7月から9月の第2四半期を対象とした。

※指標について

本報告書のD Iとは、「ディフュージョン・インデックス」(景気動向指数)の略で、各調査項目において増加・上昇・好転とした企業割合から、減少・低下・悪化とした企業割合を引いたものである。

II. 全国および兵庫県の経済動向

景気総合指数

全国および兵庫県の先行指数は、2カ月連続前月を上回った。

	指数名	R2.5	R2.6	R2.7
兵庫県	先行	73.9	78.6	81.2
	一致	63.1	67.1	66.0
	遅行	91.5	93.5	93.2
全国	先行	78.5	83.8	86.9
	一致	71.2	74.4	76.2
	遅行	92.0	93.2	91.9

出所：「兵庫県の経済雇用情勢」

中小企業景況調査

兵庫県の中小企業の景況は悪化傾向が続いているものの、前期からは改善が見られる。

前期比（「好転」－「悪化」）構成比（%）

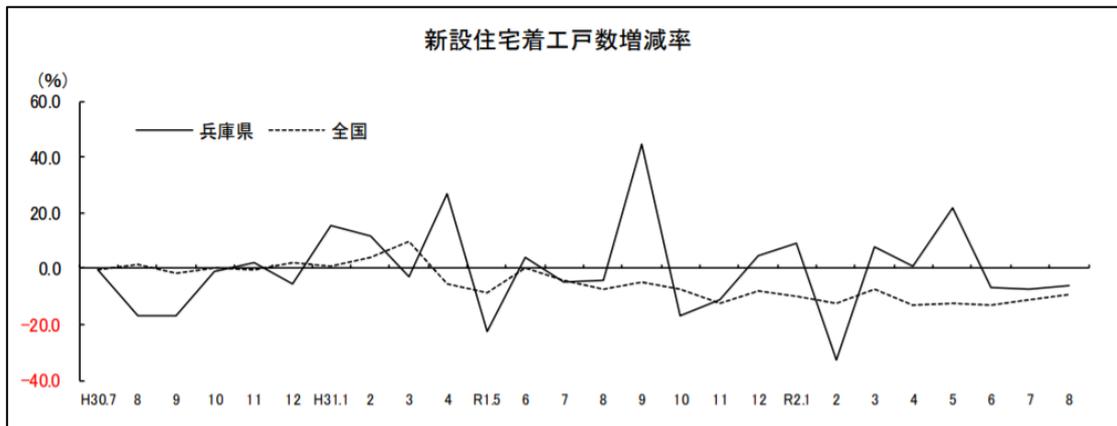
	R2.1-3	R2.4-6	R2.7-9
全産業	▲21.6	▲66.9	▲37.7
製造業	▲24.9	▲75.7	▲52.6
非製造業	▲20.3	▲63.5	▲31.5

出所：独立行政法人中小企業基盤整備機構

住宅着工件数

兵庫県の新設住宅着工戸数は、3か月連続で前年同月を下回り、R2.8は前年度比で6.3%減少した。

	R2.6	R2.7	R2.8
戸数	2,717	2,556	2,249
前年度比(%)	▲6.7	▲7.2	▲6.3



出所：国土交通省

有効求人倍率

姫路管内の有効求人倍率（R2.9）は1.13倍、兵庫県では0.93倍となった。

	R2.9		
	姫路※	兵庫県	全国
有効求人倍率	1.13	0.93	1.03
新規求人数	3,695	29,507	758,091
前年度比(%)	▲17.1	▲12.0	▲17.3

※姫路市・宍粟市・たつの市・神崎郡・揖保郡を含む姫路ハローワーク管轄内

出所：厚生労働省、同兵庫労働局

倒産件数

兵庫県の企業倒産件数は、R2.7およびR2.8は40件台であったが、R2.9に減少して28件となった。一方、全国の倒産件数は前年度に比べて減少傾向にある。

		R2.7	R2.8	R2.9
兵庫県	件数	42	45	28
	前年度比(%)	13.5	15.4	▲31.7
全国	件数	789	667	565
	前年度比(%)	▲1.6	▲1.6	▲19.5

出所：(株)東京商工リサーチ

Ⅲ. 管内調査結果

1. 売上高の状況

(1) 売上高D I

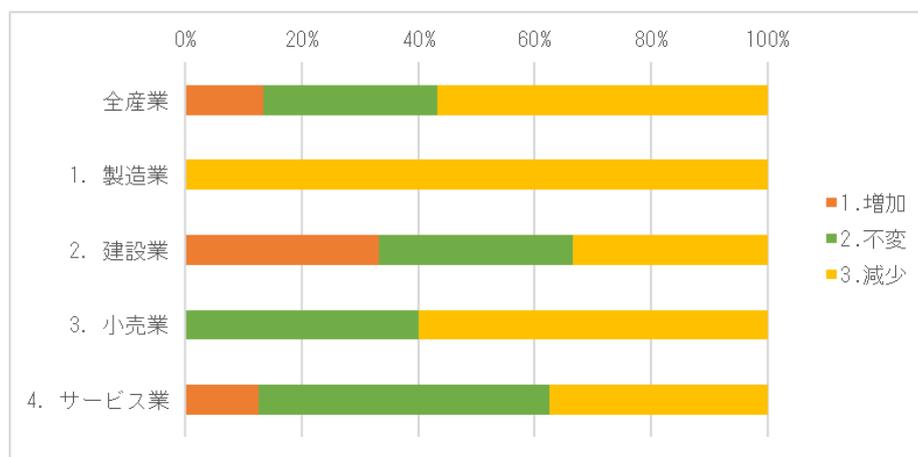
今期の全産業売上高D Iは▲43.3と前期より改善したものの、引き続きマイナス値となった。業種別に見ると建設業とサービス業では改善しているが、小売業では悪化している。

兵庫県と比較すると製造業と小売業では市川町の方がマイナス幅が大きい。全国と比較すると製造業では市川町の方がマイナス幅が大きい。

図表1. 業種別の売上高D I

【今期調査結果】

	企業数				構成比			市川町	兵庫県	全国
	1.増加	2.不変	3.減少	合計	1.増加	2.不変	3.減少	DI	DI	DI
全産業	4	9	17	30	13.3	30.0	56.7	▲ 43.3	▲ 62.1	▲ 60.2
1. 製造業	0	0	8	8	0.0	0.0	100.0	▲ 100.0	▲ 69.6	▲ 64.9
2. 建設業	3	3	3	9	33.3	33.3	33.3	0.0	▲ 63.0	▲ 33.6
3. 小売業	0	2	3	5	0.0	40.0	60.0	▲ 60.0	▲ 47.9	▲ 61.2
4. サービス業	1	4	3	8	12.5	50.0	37.5	▲ 25.0	▲ 66.2	▲ 67.8



【参考：前期調査結果】

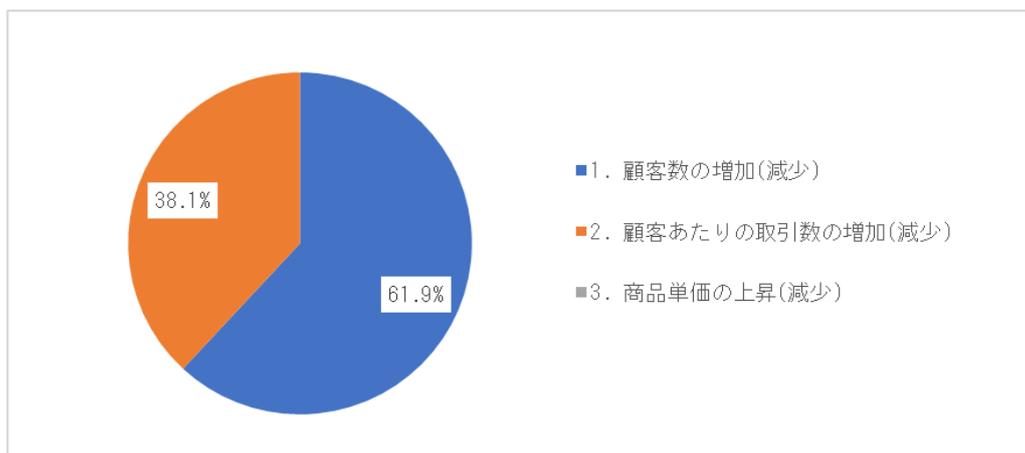
	企業数				構成比			市川町	兵庫県	全国
	1.増加	2.不変	3.減少	合計	1.増加	2.不変	3.減少	DI	DI	DI
全産業	2	7	21	30	6.7	23.3	70.0	▲ 63.3	▲ 80.0	▲ 69.0
1. 製造業	0	0	8	8	0.0	0.0	100.0	▲ 100.0	▲ 80.5	▲ 71.1
2. 建設業	1	3	5	9	11.1	33.3	55.6	▲ 44.4	▲ 70.4	▲ 35.8
3. 小売業	0	3	2	5	0.0	60.0	40.0	▲ 40.0	▲ 70.9	▲ 71.2
4. サービス業	1	1	6	8	12.5	12.5	75.0	▲ 62.5	▲ 89.1	▲ 79.9

(2) 売上高が増加、または減少した理由

売上高が増減したと回答した事業所 21 所のうち、主な理由を「顧客数の増減」としたのは約 6 割、「顧客あたりの取引数の増減」としたのは約 4 割であった。

なお、売上高が増加した事業所 4 所の増加理由は、すべて「顧客数の増加」であった。

図表 2. 売上高増減の理由



2. 採算（経常利益）の状況

(1) 採算DI

今期の全産業採算DIは▲40.0と前回より改善したものの、引き続きマイナス値となった。業種別に見ると4業種すべてで改善している。

兵庫県と比較すると製造業では市川町の方がマイナス幅が大きい。全国と比較しても製造業では市川町の方がマイナス幅が大きい。

図表3 業種別の採算DI

【今期調査結果】

	企業数				構成比			市川町	兵庫県	全国
	1.好転	2.不変	3.悪化	合計	1.好転	2.不変	3.悪化	DI	DI	DI
全産業	4	10	16	30	13.3	33.3	53.3	▲ 40.0	▲ 55.0	▲ 52.2
1. 製造業	0	1	7	8	0.0	12.5	87.5	▲ 87.5	▲ 69.6	▲ 58.5
2. 建設業	3	3	3	9	33.3	33.3	33.3	0.0	▲ 48.2	▲ 29.0
3. 小売業	0	3	2	5	0.0	60.0	40.0	▲ 40.0	▲ 48.0	▲ 51.6
4. サービス業	1	3	4	8	12.5	37.5	50.0	▲ 37.5	▲ 52.6	▲ 59.0



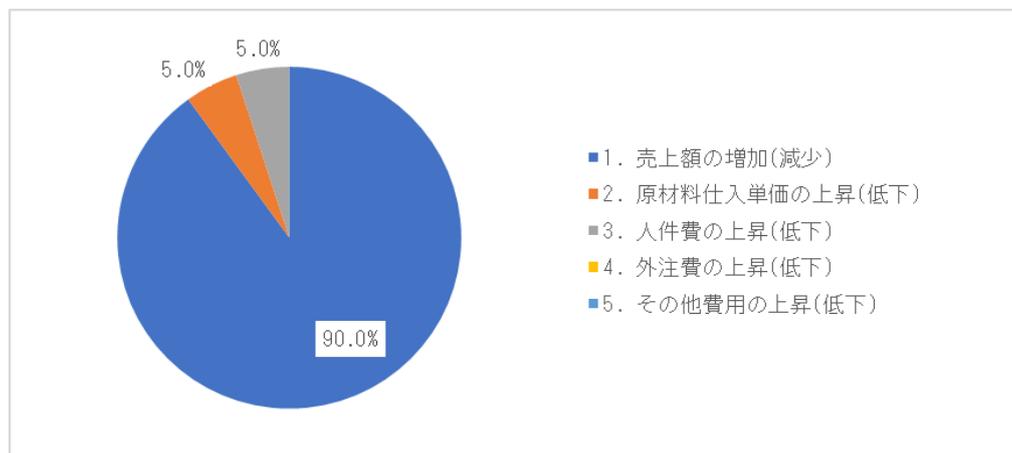
【参考：前期調査結果】

	企業数				構成比			市川町	兵庫県	全国
	1.好転	2.不変	3.悪化	合計	1.好転	2.不変	3.悪化	DI	DI	DI
全産業	2	8	20	30	6.7	26.7	66.7	▲ 60.0	▲ 71.3	▲ 61.7
1. 製造業	0	0	8	8	0.0	0.0	100.0	▲ 100.0	▲ 76.2	▲ 63.6
2. 建設業	1	5	3	9	11.1	55.6	33.3	▲ 22.2	▲ 55.6	▲ 33.1
3. 小売業	0	2	3	5	0.0	40.0	60.0	▲ 60.0	▲ 66.6	▲ 62.7
4. サービス業	1	1	6	8	12.5	12.5	75.0	▲ 62.5	▲ 76.9	▲ 72.0

(2) 採算が好転、または悪化した理由

採算が好転、または悪化したと回答した事業所 20 所のうち、ほとんどがその理由を「売上高の増減」にあるとした。また、採算が好転した企業では、「原材料仕入単価の低下」や「人件費の低下」を理由に挙げた事業所もあった。

図表 4. 採算好転悪化の理由



3. 資金繰りの状況

(1) 資金繰りDI

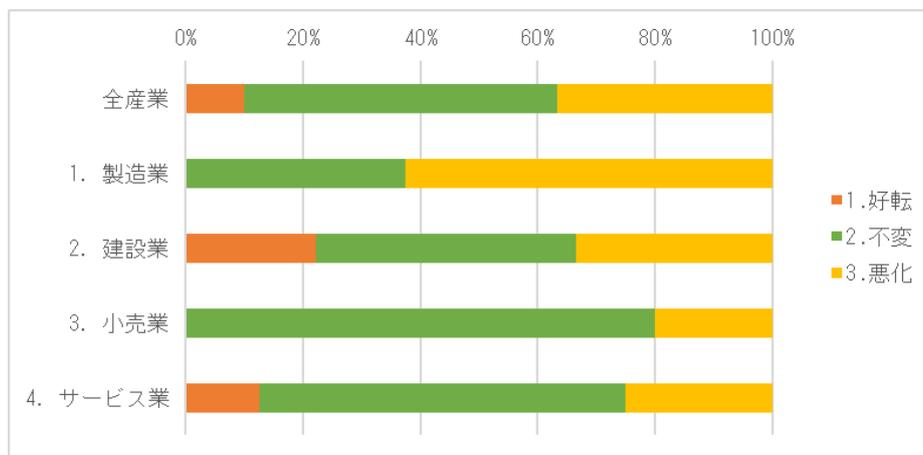
今期の全産業資金繰りDIは▲26.7と前回より改善したものの、引き続きマイナス値となった。業種別に見ると製造業とサービス業では改善しているが、小売業では悪化している。

兵庫県と比較すると製造業では市川町の方がマイナス幅が大きい。全国と比較しても製造業では市川町の方がマイナス幅が大きい。

図表5. 業種別の資金繰りDI

【今期調査結果】

	企業数				構成比			市川町	兵庫県	全国
	1.好転	2.不変	3.悪化	合計	1.好転	2.不変	3.悪化	DI	DI	DI
全産業	3	16	11	30	10.0	53.3	36.7	▲ 26.7	▲ 30.9	▲ 34.6
1. 製造業	0	3	5	8	0.0	37.5	62.5	▲ 62.5	▲ 39.1	▲ 38.5
2. 建設業	2	4	3	9	22.2	44.4	33.3	▲ 11.1	▲ 40.7	▲ 15.7
3. 小売業	0	4	1	5	0.0	80.0	20.0	▲ 20.0	▲ 23.0	▲ 34.7
4. サービス業	1	5	2	8	12.5	62.5	25.0	▲ 12.5	▲ 27.4	▲ 40.4



【参考：前期調査結果】

	企業数				構成比			市川町	兵庫県	全国
	1.好転	2.不変	3.悪化	合計	1.好転	2.不変	3.悪化	DI	DI	DI
全産業	2	16	12	30	6.7	53.3	40.0	▲ 33.3	▲ 60.6	▲ 48.8
1. 製造業	0	2	6	8	0.0	25.0	75.0	▲ 75.0	▲ 65.2	▲ 51.3
2. 建設業	1	6	2	9	11.1	66.7	22.2	▲ 11.1	▲ 66.7	▲ 22.5
3. 小売業	0	5	0	5	0.0	100.0	0.0	0.0	▲ 56.2	▲ 48.9
4. サービス業	1	3	4	8	12.5	37.5	50.0	▲ 37.5	▲ 58.1	▲ 58.5

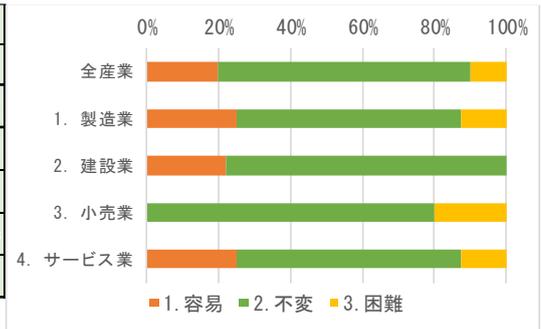
(2) 取引先からの資金回収

今期の全産業資金回収DIは10.0と前回よりやや悪化している。また、小売業で▲20.0とマイナス値となった。

図表6. 業種別の資金回収DIの状況

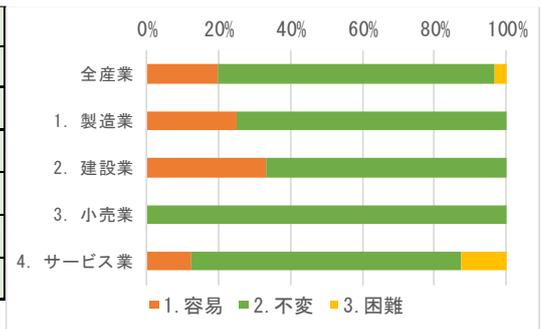
【今期調査結果】

	企業数				構成比			市川町
	1.容易	2.不変	3.困難	合計	1.容易	2.不変	3.困難	DI
全産業	6	21	3	30	20.0	70.0	10.0	10.0
1. 製造業	2	5	1	8	25.0	62.5	12.5	12.5
2. 建設業	2	7	0	9	22.2	77.8	0.0	22.2
3. 小売業	0	4	1	5	0.0	80.0	20.0	▲20.0
4. サービス業	2	5	1	8	25.0	62.5	12.5	12.5



【参考：前期調査結果】

	企業数				構成比			市川町
	1.容易	2.不変	3.困難	合計	1.容易	2.不変	3.困難	DI
全産業	6	23	1	30	20.0	76.7	3.3	16.7
1. 製造業	2	6	0	8	25.0	75.0	0.0	25.0
2. 建設業	3	6	0	9	33.3	66.7	0.0	33.3
3. 小売業	0	5	0	5	0.0	100.0	0.0	0.0
4. サービス業	1	6	1	8	12.5	75.0	12.5	0.0



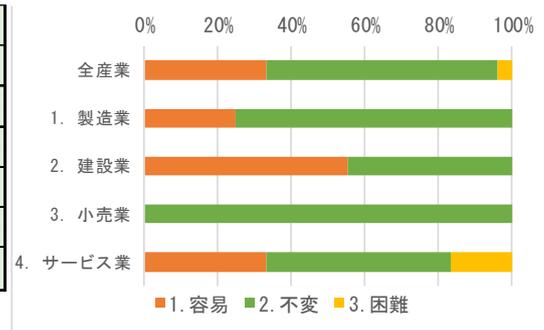
(3) 借入の容易さ

今期の全産業借入の容易さDIは29.6であった。業種別に見ても全業種でプラス値又はゼロで、借入が困難になっている事業者は少ない。

図表7. 業種別の借入DIの状況

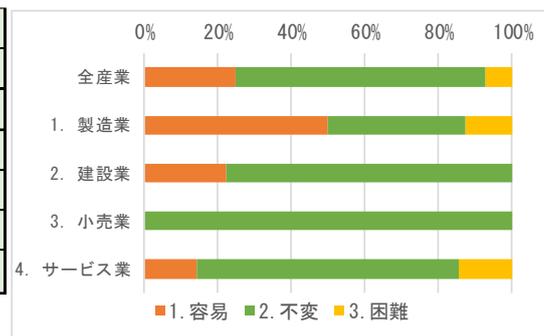
【今期調査結果】

	企業数				構成比			市川町 DI
	1.容易	2.不変	3.困難	合計	1.容易	2.不変	3.困難	
全産業	9	17	1	27	33.3	63.0	3.7	29.6
1. 製造業	2	6	0	8	25.0	75.0	0.0	25.0
2. 建設業	5	4	0	9	55.6	44.4	0.0	55.6
3. 小売業	0	4	0	4	0.0	100.0	0.0	0.0
4. サービス業	2	3	1	6	33.3	50.0	16.7	16.7



【参考：前期調査結果】

	企業数				構成比			市川町 DI
	1.容易	2.不変	3.困難	合計	1.容易	2.不変	3.困難	
全産業	7	19	2	28	25.0	67.9	7.1	17.9
1. 製造業	4	3	1	8	50.0	37.5	12.5	37.5
2. 建設業	2	7	0	9	22.2	77.8	0.0	22.2
3. 小売業	0	4	0	4	0.0	100.0	0.0	0.0
4. サービス業	1	5	1	7	14.3	71.4	14.3	0.0



4. 人材の状況

(1) 人材D I

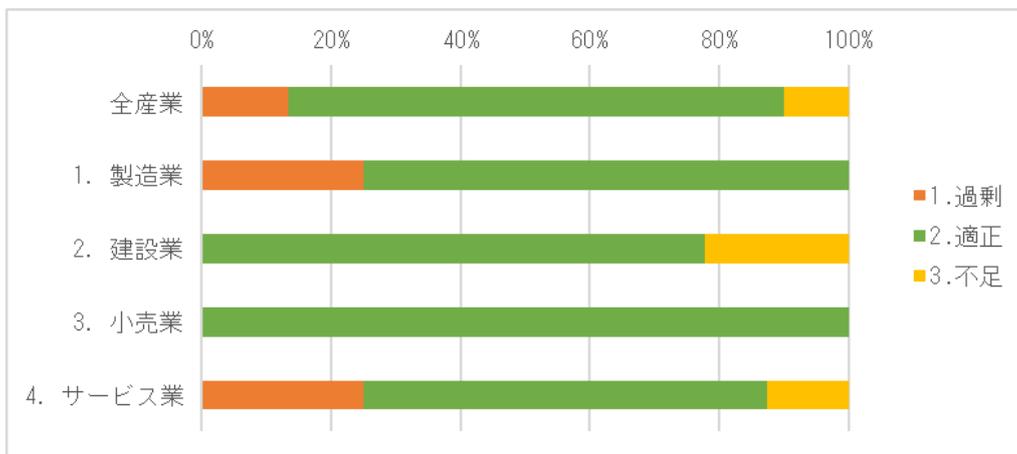
今期の全産業人材D Iは前期と同じく3.3でわずかながらプラス値となり、人材はやや過剰となった。製造業やサービス業で過剰傾向であるものの、建設業で不足傾向である。

兵庫県や全国では、ほとんどの業種で不足傾向となっている。

図表8. 業種別人材D I

【今期調査結果】

	企業数				構成比			市川町	兵庫県	全国
	1.過剰	2.適正	3.不足	合計	1.過剰	2.適正	3.不足	DI	DI	DI
全産業	4	23	3	30	13.3	76.7	10.0	3.3	▲ 8.6	—
1. 製造業	2	6	0	8	25.0	75.0	0.0	25.0	8.7	▲ 2.1
2. 建設業	0	7	2	9	0.0	77.8	22.2	▲ 22.2	▲ 16.0	▲ 26.8
3. 小売業	0	5	0	5	0.0	100.0	0.0	0.0	▲ 9.1	▲ 6.9
4. サービス業	2	5	1	8	25.0	62.5	12.5	12.5	▲ 17.2	▲ 7.8



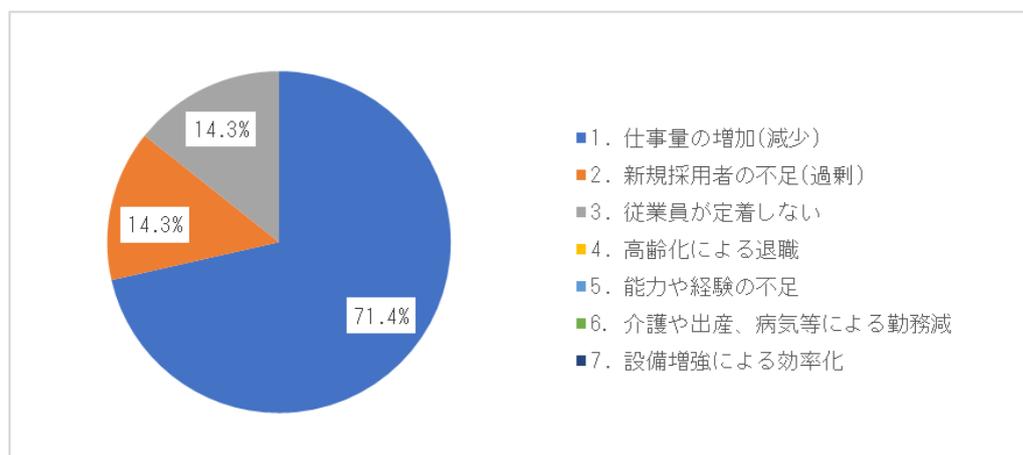
【参考：前期調査結果】

	企業数				構成比			市川町	兵庫県	全国
	1.過剰	2.適正	3.不足	合計	1.過剰	2.適正	3.不足	DI	DI	DI
全産業	4	23	3	30	13.3	76.7	10.0	3.3	1.1	—
1. 製造業	3	4	1	8	37.5	50.0	12.5	25.0	15.2	4.4
2. 建設業	0	7	2	9	0.0	77.8	22.2	▲ 22.2	▲ 19.3	▲ 24.1
3. 小売業	0	5	0	5	0.0	100.0	0.0	0.0	▲ 2.2	▲ 3.8
4. サービス業	1	7	0	8	12.5	87.5	0.0	12.5	1.4	0.0

(2) 人材が過剰又は不足の理由

人材に過不足があると回答した7所で、最も多かった理由は「仕事量の増減(71.4%)」であった。その他には、「新規採用者の過剰」「従業員が定着しない」といった理由が挙げられた。

図表9. 人材過不足の理由



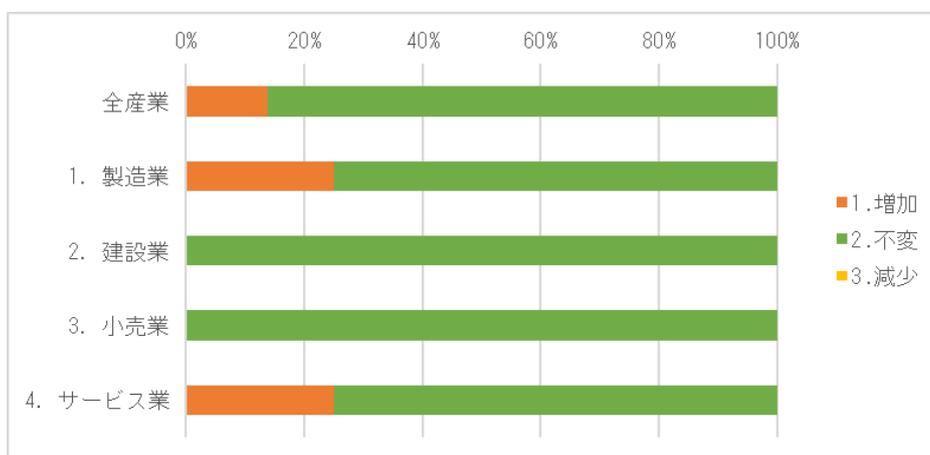
(3) 従業員数（含む臨時・パート）

従業員数DIは、全業種でプラス値又はゼロとなっており、従業員数は増加傾向にあると言える。一方、兵庫県や全国では全業種でマイナス値で減少傾向である。

図表10. 業種別の従業員数DI

【今期調査結果】

	企業数				構成比			市川町	兵庫県	全国
	1.増加	2.不変	3.減少	合計	1.増加	2.不変	3.減少	DI	DI	DI
全産業	4	25	0	29	13.8	86.2	0.0	13.8	▲ 11.5	—
1. 製造業	2	6	0	8	25.0	75.0	0.0	25.0	▲ 11.1	▲ 11.5
2. 建設業	0	9	0	9	0.0	100.0	0.0	0.0	▲ 7.7	▲ 7.0
3. 小売業	0	4	0	4	0.0	100.0	0.0	0.0	▲ 7.1	▲ 5.0
4. サービス業	2	6	0	8	25.0	75.0	0.0	25.0	▲ 16.0	▲ 12.8



【参考：前期調査結果】

	企業数				構成比			市川町	兵庫県	全国
	1.増加	2.不変	3.減少	合計	1.増加	2.不変	3.減少	DI	DI	DI
全産業	4	24	1	29	13.8	82.8	3.4	10.3	▲ 14.1	—
1. 製造業	2	6	0	8	25.0	75.0	0.0	25.0	▲ 13.1	▲ 10.6
2. 建設業	0	8	1	9	0.0	88.9	11.1	▲ 11.1	▲ 3.8	▲ 7.0
3. 小売業	0	4	0	4	0.0	100.0	0.0	0.0	▲ 9.3	▲ 6.4
4. サービス業	2	6	0	8	25.0	75.0	0.0	25.0	▲ 21.7	▲ 14.6

(4) 外部人材

外部人材DIは、製造業ではマイナス値、その他の3業種ではゼロとなった。
一方、兵庫県や全国では全業種でマイナス値で減少傾向である。

図表 1 1. 業種別の外部人材DI

【今期調査結果】

	企業数				構成比			市川町	兵庫県	全国
	1.増加	2.不変	3.減少	合計	1.増加	2.不変	3.減少	DI	DI	DI
全産業	2	24	3	29	6.9	82.8	10.3	▲ 3.4	▲ 10.4	—
1. 製造業	0	7	1	8	0.0	87.5	12.5	▲ 12.5	▲ 10.0	▲ 11.7
2. 建設業	2	5	2	9	22.2	55.6	22.2	0.0	▲ 28.0	▲ 5.5
3. 小売業	0	4	0	4	0.0	100.0	0.0	0.0	▲ 7.1	▲ 4.2
4. サービス業	0	8	0	8	0.0	100.0	0.0	0.0	▲ 3.9	▲ 8.9



【参考：前期調査結果】

	企業数				構成比			市川町	兵庫県	全国
	1.増加	2.不変	3.減少	合計	1.増加	2.不変	3.減少	DI	DI	DI
全産業	2	27	0	29	6.9	93.1	0.0	6.9	▲ 10.1	—
1. 製造業	1	7	0	8	12.5	87.5	0.0	12.5	0.0	▲ 10.7
2. 建設業	1	8	0	9	11.1	88.9	0.0	11.1	▲ 13.6	▲ 6.4
3. 小売業	0	4	0	4	0.0	100.0	0.0	0.0	▲ 13.8	▲ 7.5
4. サービス業	0	8	0	8	0.0	100.0	0.0	0.0	▲ 11.8	▲ 13.2

5. 業況の状況

(1) 業況DI

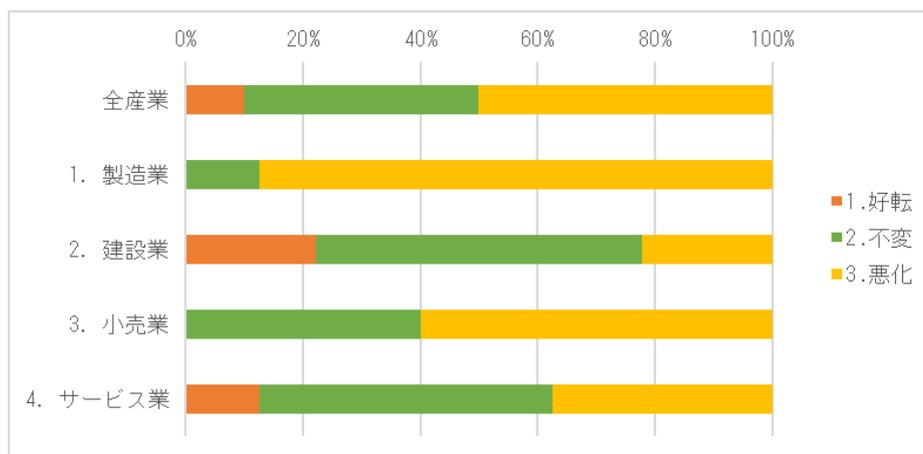
今期の全業種業況DIは▲40.0と前回より改善したものの、引き続きマイナス値となった。業種別に見ると小売業では悪化しているが、その他の業種では改善している。

兵庫県と比較すると製造業と小売業では市川町の方がマイナス幅が大きい。全国と比較しても製造業と小売業では市川町の方がマイナス幅が大きい。

図表12. 業種別の業況DI

【今期調査結果】

	企業数				構成比			市川町	兵庫県	全国
	1.好転	2.不変	3.悪化	合計	1.好転	2.不変	3.悪化	DI	DI	DI
全産業	3	12	15	30	10.0	40.0	50.0	▲ 40.0	▲ 55.5	—
1. 製造業	0	1	7	8	0.0	12.5	87.5	▲ 87.5	▲ 71.8	▲ 61.5
2. 建設業	2	5	2	9	22.2	55.6	22.2	0.0	▲ 44.5	▲ 29.0
3. 小売業	0	2	3	5	0.0	40.0	60.0	▲ 60.0	▲ 45.7	▲ 56.1
4. サービス業	1	4	3	8	12.5	50.0	37.5	▲ 25.0	▲ 55.3	▲ 60.7



【参考：前期調査結果】

	企業数				構成比			市川町	兵庫県	全国
	1.好転	2.不変	3.悪化	合計	1.好転	2.不変	3.悪化	DI	DI	DI
全産業	1	10	19	30	3.3	33.3	63.3	▲ 60.0	▲ 77.9	—
1. 製造業	0	0	8	8	0.0	0.0	100.0	▲ 100.0	▲ 84.7	▲ 70.0
2. 建設業	1	5	3	9	11.1	55.6	33.3	▲ 22.2	▲ 66.7	▲ 34.5
3. 小売業	0	3	2	5	0.0	60.0	40.0	▲ 40.0	▲ 62.6	▲ 66.8
4. サービス業	0	2	6	8	0.0	25.0	75.0	▲ 75.0	▲ 87.7	▲ 73.7

(2) 業況判断の背景 (自由回答)

「外部イベント中止のため、収入が減っている」、「新型コロナウイルス感染症による需要減少」、「新型コロナの影響で8月いっぱいまで休業していたため、9月より再開」など、新型コロナウイルスによる影響を依然として受けている。

一方、「コロナで離れたお客様も少しずつ戻ってこられ、通年と同等の業況になりつつあります」、「お客様の来店回数が減っているが、まとめて購入される方も多く、客単価はあがっている」、「マスコミ効果で来店客大幅増加 (奥さま手帳等)」といった回答も見られた。

6. 設備投資の実施状況

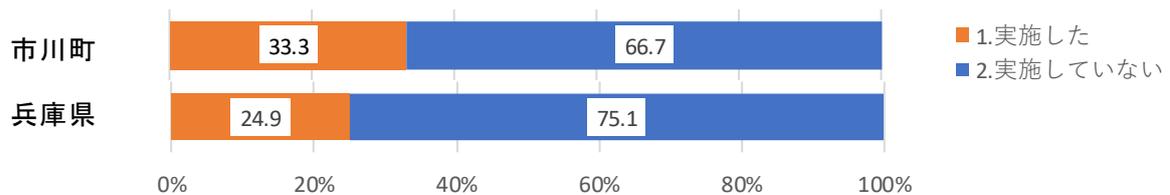
(1) 今期の設備投資

今期に設備投資した事業所は33.3%であった。前期と同様に、兵庫県よりも市川町の方が設備投資した事業所の割合は高い。

図表13. 今期の設備投資実施状況

【今期調査結果】

	企業数			構成比		兵庫県構成比		全国構成比	
	1.実施した	2.実施していない	合計	1.実施した	2.実施していない	1.実施した	2.実施していない	1.実施した	2.実施していない
全産業	10	20	30	33.3	66.7	24.9	75.1	-	-
1. 製造業	3	5	8	37.5	62.5	15.2	84.8	15.0	85.0
2. 建設業	2	7	9	22.2	77.8	22.2	77.8	20.2	79.8
3. 小売業	1	4	5	20.0	80.0	27.1	72.9	13.4	86.6
4. サービス業	4	4	8	50.0	50.0	28.4	71.6	17.1	82.9



【参考：前期調査結果】

	企業数			構成比		兵庫県構成比		全国構成比	
	1.実施した	2.実施していない	合計	1.実施した	2.実施していない	1.実施した	2.実施していない	1.実施した	2.実施していない
全産業	8	22	30	26.7	73.3	17.3	82.7	-	-
1. 製造業	1	7	8	12.5	87.5	15.2	84.8	12.5	87.5
2. 建設業	1	8	9	11.1	88.9	18.5	81.5	17.6	82.4
3. 小売業	1	4	5	20.0	80.0	10.4	89.6	8.4	91.6
4. サービス業	5	3	8	62.5	37.5	16.2	83.8	10.9	89.1

(2) 来期の設備投資

来期に設備投資を予定している事業所は26.7%であった。前期より差は小さくなっているものの、兵庫県よりも市川町の方が設備投資意欲が高いと言える。

図表14. 来期の設備投資計画

【今期調査結果】

	企業数			構成比		兵庫県構成比		全国構成比	
	1.予定している	2.予定していない	合計	1.予定している	2.予定していない	1.予定している	2.予定していない	1.予定している	2.予定していない
全産業	8	22	30	26.7	73.3	21.0	79.0	-	-
1. 製造業	1	7	8	12.5	87.5	15.2	84.8	17.1	82.9
2. 建設業	5	4	9	55.6	44.4	33.3	66.7	17.5	82.5
3. 小売業	0	5	5	0.0	100.0	27.1	72.9	13.3	86.7
4. サービス業	2	6	8	25.0	75.0	27.0	73.0	18.4	81.6



【参考：前期調査結果】

	企業数			構成比		兵庫県構成比		全国構成比	
	1.予定している	2.予定していない	合計	1.予定している	2.予定していない	1.予定している	2.予定していない	1.予定している	2.予定していない
全産業	13	17	30	43.3	56.7	18.5	81.5	-	-
1. 製造業	3	5	8	37.5	62.5	15.2	84.8	15.6	84.4
2. 建設業	4	5	9	44.4	55.6	25.9	74.1	16.9	83.1
3. 小売業	1	4	5	20.0	80.0	12.5	87.5	10.8	89.2
4. サービス業	5	3	8	62.5	37.5	17.6	82.4	14.8	85.2

7. 最も優先すべき経営上の課題

今期に最も優先すべき経営上の課題は、事業所によってそれぞれであり回答が分散した。割合がもっとも多かった回答は「販路開拓・営業力の強化」と「新商品・新サービスの開発」で、それぞれ16.7%であった。次いで、「ニーズ変化への対応」と「人材の確保、人材育成」がそれぞれ13.3%を占めた。

事業所がそれぞれの課題を抱えており、個別の事情に合わせた課題解決が求められる。また同時に、優先すべき課題の見極めも重要な論点となると考えられる。

図表15. 経営上の課題

